



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第18号 2003年8月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: (03)3418-4933
編集/発行: 広報部

聖書が導くもの



牧師 陣内厚生

十九世紀のロシアの文豪ドストエフスキーは、青年時代に社会主義の団体に関係した廉(かど)でシベリアに流刑されました。引かれていく途中クリスマス・イブに、ある町で一人の婦人からこっそり聖書を手渡されたのです。その聖書を四年間の流刑生活で熟読したことが、その後の文学活動に決定的な意味をもたら

し、神を見失った近代精神に対しキリスト教の実存を追求したと言われます。まさに一冊の聖書が彼の生涯を一変させ、「貧しき人々」や「罪と罰」、「悪霊」、「白痴」、「カラマーゾフの兄弟」などの宗教的とも言える名作が残されました。

このように、聖書とのドラマティックな出会いが信仰を生み出していった例は数多くあります。歴史上に名を残した学者、思想家、芸術家、政治家、自然科学者など枚挙にいとまがありません。いや、かく言う私たちクリスチャンの間でも、だれしも聖書の真実な言葉に心を打たれたに違いないのです。聖書の言葉は、人びとの心をとらえ、その人生観・世

界観を覆すほどの力に満ちていることがわかります。

聖書とは何でしょうか。古くは紀元前一千数百年前から伝承されてきたものが、文字として書き残され、やがてイエス・キリストが到来し、その証言者たちが記録した文書が集録された書物です。そこには神が語り、神の用いられた人間が描かれています。そしてイエス・キリストの言葉とわざとから、唯一の救いが成就したという究極のメッセージを聞くことができるのです。

実に、聖書は二千年前に成立して以来変わることがありません。へあなたちはわたしが命じる言葉に何一つ加えることも、減らすこともしてはならない。(申命記四・二)。

なぜ聖書はこのようにして保持され続けているのでしょうか。それは神が造られた人間の、あまりにも人間的な現実の営みがあり、そこに神のみ言葉が投げかけられているからです。消し去るうにも、人間にこだわ

り続ける神の深い意志がこの歴史に鋭く刻まれていて、この世で唯一の

確かな希望を示しているとも言えるからです。

イエスは言われました。へあなたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。(ヨハネ福音書五・三九)と。すなわち、創世記から黙示録に至るまでの全文章が、イエスを証していると言うのです。聖書に尋ねる私たちは、イエス・キリストを度外視してはならず、旧約聖書を読む際にもイエス・キリストの存在を踏まえていなければなりません。

ヨハネ福音書ではその目的をこう述べました。へこれらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。(二〇・三一)と。

わが教団の信仰告白文にある「信仰と生活の誤りなき規範」である聖書を固くたすさえ、混迷する世を生きぬく自信と勇気を、いま一度与えられたいものです。